

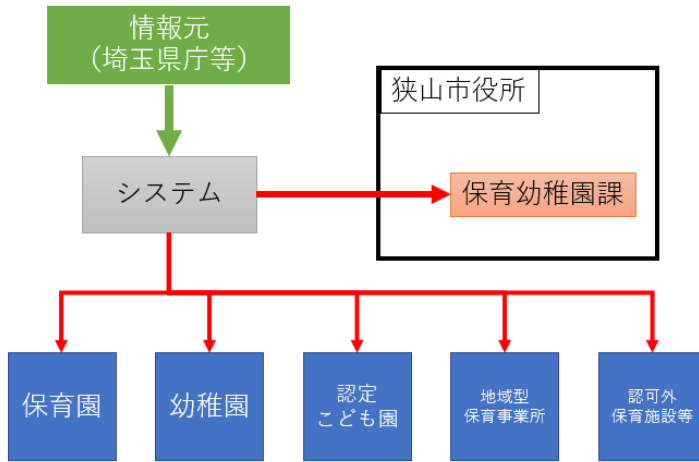
令和5年度「地方公共団体が抱える地域課題」〈埼玉県狭山市〉

| | | |
|---------|------|---|
| 課題の概要 | 分野名 | 「子育て」「災害」 |
| | 概要 | <p>【熱中症警戒アラート発令の伝達システムの構築】</p> <p>狭山市では、熱中症警戒アラートの周知に時間がかかるといった課題がある。そこで、以下の3点を含めた解決策を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①RPA等を活用した情報収集から周知までの自動化 ②災害情報・不審者情報等への転用 ③「子ども・子育て支援情報公表システム」の活用 |
| 地域課題の内容 | 該当地域 | 狭山市 |
| | 内容説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在狭山市では、熱中症警戒アラートが発令された際、Garoon(狭山市職員ポータルサイト)にて埼玉県より注意喚起があったことを環境課が庁内に周知し、この情報をもとに保育幼稚園課から各施設に対して注意喚起を行っている。 ・当市の課題としては、熱中症警戒アラートが発令された際に、埼玉県から環境課を通じて情報が周知されるため、緊急性がある際に、迅速に情報が届かない点にあると考えている。また、熱中症警戒アラートが発令された際、情報をメールで転送しているため、職員への業務負担が生じている。 ・子どもは熱中症のリスクが高いという特徴を有しているため、迅速かつ適切な対応をするためにも、熱中症警戒アラートが発令された際には、迅速に各施設等に情報を提供し、子どもの安全を速やかに確保する必要がある。 ・そこで、RPA等を活用し、情報収集から周知までを自動化することによって、各施設への伝達の迅速化と職員負担の軽減を図りたい。 ・また、熱中症警戒アラートだけではなく、災害情報・不審者情報等にも転用可能なシステムであることが望ましい。 ・更に、熱中症警戒アラートが発令された際に、内閣府の「子ども・子育て支援情報公表システム(ここdeサーチ)」を活用したいと考えている。 <p>【現在の熱中症警戒アラート・災害情報・不審者情報伝達図】</p> <pre> graph TD A[埼玉県庁] --> B[狭山市役所] B --> C[環境課] C --> D[狭山ポータルサイト] D --> E[保育幼稚園課] E --> F[保育園・幼稚園] </pre> <ul style="list-style-type: none"> ①狭山市役所の各課宛に情報が伝達 ②狭山市 環境課からポータルサイトへ情報を掲載 ③保育幼稚園課が、ポータルサイトへの掲載を確認 ④狭山市内の保育園・幼稚園宛にメールにて情報を周知 |

- ・ 埼玉県庁からの情報を市内の幼稚園・保育園等にダイレクトに周知できる伝達システムの構築
- ・ RPAの活用による熱中症警戒アラート、災害情報、不審者情報等の伝達システムの自動化
- ・ 保育所情報をCSV等で、一括登録できるシステムの構築

【情報伝達システムの理想図】

希望する
提案内容の一例



令和5年度「地方公共団体が抱える地域課題」〈東京都杉並区〉

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|--|-------------|-----------------------------|-----------|--|-------------|---|--|--|-------------|-----------------------------------|------------------------------------|--|
| <p>課題の概要</p> | <p>分野名</p> <p>「モビリティ」</p> | <p>概要</p> <p>【MaaSを基軸とした「杉並区地域公共交通計画」の推進】 杉並区では、近年の技術革新への対応や将来的な移動困難者増大への備え等といった課題が存在しており、令和5年に策定した杉並区地域公共交通計画の中で、MaaSを活用した課題解決を検討している。 そこで、課題解決のための「住宅都市版MaaS」の構築モデルを募集したい。</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>地域課題の内容</p> | <p>該当地域</p> <p>R6年度は荻窪地域、その後区内全域に展開</p> | <p>・杉並区では、近年の技術革新への対応や将来的な移動困難者増大への備え等といった課題があり、令和5年3月に「杉並区公共交通計画」の策定を行った。</p> <p>・当該計画に基づき、MaaSを活用して「新たな移動の価値創出」や「移動の活性化」を推進することとしており、令和6年に実施を予定する荻窪地域でのMaaS実証実験の成功体験を得て、その後は区内全域に、そして近隣自治体に対し波及効果の高い事業モデルを確立することが求められている。</p> <p>・加えて、令和6年度中には、新たにグリーンスローモビリティやAIオンデマンド交通の実証運行実施を計画する中で、これまでのシェアサイクルやコミュニティバスなどを含め様々な移動の選択肢を区民にわかりやすく提示し、移動を活性化するスキーム構築が求められている。</p> <p>・区内では既に鉄道事業者を主としてMaaSアプリを個別に構築・運用しており、現状区民の利便性が高いものとはなっていないという課題があり、都市OSの構築等を見据えた検討が必要である。</p> <p>・上記の状況から、既存MaaSアプリの統合等を通じて、移動の利便性向上に留まらず、環境負荷の低減や健康増進というメリットを区民が明確に享受でき、徒歩や自転車での移動に加え、公共交通の利用促進等が図られる「住宅都市版MaaS」を構築していきたい。</p> <div data-bbox="496 1010 1369 1872" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>取組1 交通事業者等のプラットフォームを活用したMaaSの実装</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">実施主体</td> <td style="width: 45%;">区、鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者、民間事業者</td> <td style="width: 15%;">連携</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td>実施内容</td> <td colspan="3"> 様々な移動サービスを1つに統合させた新たなモビリティサービスである杉並版MaaSを導入・実装することにより、区民の移動利便性の更なる向上とともに、移動と移動の先にある活動が組み合わせることで新たな価値の創出が見込まれるため、既存の交通事業者等のMaaSプラットフォームの活用検討を進める。実証実験という体験を通じて、区民等の潜在的な活動意欲を喚起するとともに、地域への波及効果のあるビジネスモデルの構築などのため、創意工夫に富んだ民間事業者の取組に対して、コミュニケーション・制度の面から支援を行う。 <活用を検討するMaaSプラットフォームの例> Ringo Pass (JR東日本)、TAMa-GO (京王電鉄)、my route (トヨタファイナンシャルサービス) 等 </td> </tr> <tr> <td>実施期間</td> <td>短期 令和5(2023)年度 ～令和8(2026)年度</td> <td>中期 令和9(2027)年度 ～令和12(2030)年度</td> <td></td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「杉並区地域公共交通計画」より抜粋</p> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>取組のイメージ</p> <p style="text-align: center;">図表 5-16 杉並版MaaSのイメージ</p> </div> </div> <p>(計画リンク先) https://www.city.suginami.tokyo.jp/kusei/seisaku/gyousei/bumon4/1087386.html</p> | 実施主体 | 区、鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者、民間事業者 | 連携 | | 実施内容 | 様々な移動サービスを1つに統合させた新たなモビリティサービスである杉並版MaaSを導入・実装することにより、区民の移動利便性の更なる向上とともに、移動と移動の先にある活動が組み合わせることで新たな価値の創出が見込まれるため、既存の交通事業者等のMaaSプラットフォームの活用検討を進める。実証実験という体験を通じて、区民等の潜在的な活動意欲を喚起するとともに、地域への波及効果のあるビジネスモデルの構築などのため、創意工夫に富んだ民間事業者の取組に対して、コミュニケーション・制度の面から支援を行う。 <活用を検討するMaaSプラットフォームの例> Ringo Pass (JR東日本)、TAMa-GO (京王電鉄)、my route (トヨタファイナンシャルサービス) 等 | | | 実施期間 | 短期 令和5(2023)年度 ～令和8(2026)年度 | 中期 令和9(2027)年度 ～令和12(2030)年度 | |
| 実施主体 | 区、鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者、民間事業者 | 連携 | | | | | | | | | | | | |
| 実施内容 | 様々な移動サービスを1つに統合させた新たなモビリティサービスである杉並版MaaSを導入・実装することにより、区民の移動利便性の更なる向上とともに、移動と移動の先にある活動が組み合わせることで新たな価値の創出が見込まれるため、既存の交通事業者等のMaaSプラットフォームの活用検討を進める。実証実験という体験を通じて、区民等の潜在的な活動意欲を喚起するとともに、地域への波及効果のあるビジネスモデルの構築などのため、創意工夫に富んだ民間事業者の取組に対して、コミュニケーション・制度の面から支援を行う。 <活用を検討するMaaSプラットフォームの例> Ringo Pass (JR東日本)、TAMa-GO (京王電鉄)、my route (トヨタファイナンシャルサービス) 等 | | | | | | | | | | | | | |
| 実施期間 | 短期 令和5(2023)年度 ～令和8(2026)年度 | 中期 令和9(2027)年度 ～令和12(2030)年度 | | | | | | | | | | | | |

- ・公共交通の利用促進等が図られる「杉並区住宅都市版MaaS」の構築。
- ・既存のアプリ統合等を含め、他の都心住宅地域への波及効果のある新しいビジネスモデルの構築。



希望する
提案内容の一例

【参考】杉並区が考える「民間事業である公共交通の価値向上」への方向性

